

いかがお過ごしですか。

勉強会が開けないまま数か月が経過していますが、今の状況ではやむを得ないと思っています。私も早く皆さんと会って勉強したいと願っているのですが、果たして、収束はいつになることやら・・・。終息に至ることは、たぶん無理なのだろうと思っています。

新型コロナというのが車のことなら苦労はなかったのですが、コロナといってもウイルスであることから、極めて厄介な状況に追い込まれてしまいました。

[もとはといえば、最初に、内閣が生命尊重よりも経済尊重の施策をとったことにあるのだとも言われています。そういえば今もコロナウイルス問題の担当は**経済再生**担当大臣が前面に出ていますね。]

ウイルスは肉眼では見えませんが、しかも感染力が非常に強い上に薬も無いのだから、お互いに接触を避けるしかありません。世界は見えない弾が飛びかう戦場になってしまったのですね。しかも自分がこの見えない弾を撃ってしまうことにもなりかねない。

ここに至って、事態は国民の**道徳性の問題**となっています。

行動規制がなされ、社会生活を犠牲にしても人と人との接触を避ける必要が生じているわけですが、「**自粛**」というものは、他人から要求されると「**萎縮**」になりますね。自分で自粛して最後の一杯をやめにして盃を置くのは萎縮には繋がりませんが、他人に指示されて杯を置くのは萎縮につながります。[これは吞兵衛にしか分からないかもしれませんが]自分で自粛する場合は、行為の主体としての自由意志が働くから萎縮にならないのです。他方、自由な意志を抑圧すると萎縮を起こさせる、ということです。このことは教育上のヒントを含んでいます。ともかく、**自主と自粛(要請)は大違い**なのです。

さて、萎縮というのは**抑圧された「気分」**のことです。今、国民すべてがこの抑圧された気分になっているのですが、これは子供たちも同様です。心の教育を大切に思う教員は、今こそ、この「抑圧された気分」を超克するための援助をするべきだと思います。

すでに皆さんは個別に様々な行動を起こしていると思いますが、その情報をこのホームページで交換し合いませんか。

今私が危惧していることは、教育界が、授業時数の確保をどのようにするか(数量の問題)、教科指導の遅れをどう取り戻すか(質の問題を考えているが一部の教科に傾きすぎ)、家庭学習をどう支援するか(コンピューターまかせの教科指導)などに偏りすぎないかということです。こうしたことを考え具体的な手立てを打つことも重要なことですが、

今、子どもたちが体験している事態を貴重な稀有の教材として人格の形成に役立てることを考えてもらいたいと思うのです。こういう時でも教科の学習しか考えられない大人が多いことをとても残念に思っています。

今こそ、平時の仕組みへ戻すことだけではなく、「今を生きる」ことを通して「自己の生き方についての考えを深める」ために、道徳教育を重視する時であると思います。

子供たちは今、人は一人で生きなければならないという人生の厳しい冷徹な事実と、人は人と共に支えあってこそ生きられるという暖かい側面があることに、臆気ながら気づいていると思います。発達の的には、人と共に生きるということから始まり、やがて一人を生きるという力が育ってきます。つまり子供にはまず、誰かと一緒に、生きることが必要なのです。ところが今は「友達と一緒に」ということができない。

いま為すべきことは、日常の抑圧された「気分」から子供を解放することそして、今、子どもたちの生活に欠けているものは、人とのつながりの確証。

だから、たとえば、児童生徒一人に1枚、葉書を出すというようなことが考えられます。

ただし、学校からの通知文のようなものではなく、印刷したものでもなく、しかもメールではなく、自筆(肉筆)の、短い(せいぜい3行程程度の)文で、教育愛のこもったもの。がいいと思います。

皆さんの知恵やアイデアをこのページで交換しましょう。

勉強会は、まだ当分開けないかもしれませんが。ウイルスの拡散を避けるためには仕方がないですね。でも、これが収束すれば、また楽しく勉強しましょう。だから元気でいてくださいよ。

一人で生きる、人と共に生きる